

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2993300017		
法人名	医療法人 健和会		
事業所名	グループホームふれあい広陵		
所在地	奈良県北葛城郡広陵町三吉28-1		
自己評価作成日	令和6年2月21日	評価結果市町村受理日	令和6年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2993300017-006&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市高天町48番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和6年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の近くには讃岐神社、足をのばせば竹取公園や馬見丘陵公園があり、周辺には高い建物がない為日当たりと風通しも良く、自然を感じながら生活を送れる場所に立地しています。食事は季節を感じられるメニューや旬の食材を使用し、職員がバランスの取れたメニューを考えています。入居者様一人ひとりのペースに合わせた生活が送って頂ける様に、個別ケアを大切に、外に出る機会を増やし外部との関わりを持てるように支援させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は、病院やリハビリテーション施設、老人ホームや在宅支援サービスを総合的に運営している法人で、グループホームも7ヶ所ある。事業所は木造平屋建ての2ユニットのグループホームで、周りは田畑や戸建て住宅がある。近くには神社やお寺、馬見丘陵公園があり、自然環境に恵まれている。リビングダイニングは天井が高く、開放感があり、1日の大半をそこで過ごし、お喋りし、職員が作る料理を食べ、家庭を彷彿とさせる。天気が良ければ、玄関先の駐車場に出て体操やお茶をしたり、近隣の散歩したり、時にドライブや外食に出かけることもある。職員は全体的に若く、管理者は現場に権限を与え、生き活きと働いている。最期まで安心して自分らしく過ごせるよう支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふれあいの里の理念をグループホームの理念とし、毎朝朝礼時に唱和している。管理者と職員が理念を共有し意識づけられている。	法人理念を玄関に掲示するとともに、毎朝、職員で唱和している。共有の認識として、支援に活かしていくように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入させて頂いている。町の広報誌の配布を受けている。少人数の散歩など地域の方に声を掛けて頂いたり、お正月には地域の方より甘酒を入居者全員分を頂いたりしている。	自治会に加入しており、広報も頂けている。地域の行事は再開されているが、まだ参加は見合わせている。町の作品展に利用者の貼り絵を出展し、見に行ったことがある。ボランティアの来訪は再開し、電子ピアノの演奏で一緒に歌っており、次回の予定もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の相談や、他事業者様からの相談に対して、今の状況や困っている事や考えなどを聞き、ご家族様の相談のあった方に対して寄り添い、関わり方や考えを一緒に考えられるように努める。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナが5類になってからまだ開催できず、今年度は3月から実施予定で調整中。それまでは書面で報告している。	コロナ禍の時は町との協議で、運営推進会議は開催してこなかったが、今月より開催を予定している。町介護福祉課、自治会、家族の参加者を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者様のご様子や、事業所の実情を報告している。困り事や分からない事があった時に直接伺ったりしてアドバイスを頂いたりしている。	町とは、介護保険手続き、事故報告、困難事例等の相談、感染症等の指導や状況報告、生活保護受給者の手続き等で連絡を取り合っている。県主催の研修の情報も入ってくる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修や勉強会で学習し、職員全員に周知し取り組んでいる。問題が発生した時は担当職員が中心となり、ご家族様とも相談しながら支援方法を考える。基本的には身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所開設以来、身体拘束例はない。運営規定と重要事項説明書に身体拘束をしないことを明記している。法人の研修で折に触れ、取り上げられている。日中も玄関を施錠しているが、中からは外すことができる。外に出ようとする方には話しかけたり、一緒に外に出て、気分転換して落ち着いていただいている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ステップアップ研修に虐待防止の研修も組み込まれていて、職員に意識づけられている。職員同士で情報の共有を行っている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に成年後見人制度を利用されている方がおられました。ステップアップ研修にも組み込まれ、制度の理解を深め活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明し理解を頂いた上で契約をさせて頂いている。必要に応じて繰り返し説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には出来るだけご家族様に声を掛けご意見やご要望を伺い職員間でも運営に反映させて頂いています。	家族の意見や要望、面会時や電話で聴いている。コロナ禍以降、面会の可否や仕方についてが多い。現在も、玄関で距離を開け、マスク着用をお願いしている。短時間であれば、外食も認めている。月1回、日常やイベントでの写真を送っていて、喜んで頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、開催している。自由に意見が言える機会を作り、会議では出た意見を検討し業務改善等に生かしている。	月1回の現場職員での会議、話し易くと考え事業所管理者は入らず、挙がって来る意見要望を聴き対応している。人手を増やして欲しい、利用者のケア内容、物品購入などが出る。夜勤手当アップ、休日の扱い等の要望もあり、必要なことは法人本部に伝えている。ボーナス査定でもある個人面談を年2回、キャリアパス制度と能力を上げていける制度は整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組織全体で職能給制度を取り入れている。個別に面接を行い向上心を持てるよう働きかけている。またストレスチェックも導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスの導入により、やりがいや向上心を持って働けるようにしている。研修は勤務時間内で受講、受講料の補助等、受講しやすいように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内でグループホーム会議を月1回実施し、意見や情報交換、勉強会をしている。周辺地域の施設やグループホームとも交流する機会を作りお互いに相談できる関係を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接では、困っている事や心配なことがないか、ご要望も聞きながら話しやすい雰囲気を作り、安心して入居頂ける様に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談、見学の段階から密に関わり、時間をかけて関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や入居相談時、グループホームでの生活が困難と判断した時は他のサービスを勧めたり相談先の案内をさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりの中で教えて頂く事もたくさんあり、助け合いながら生活が送れる親しみやすい関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にも日々の生活への関わり、協力をお願いして、共に支えていく関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会時間の制限はなく、コロナが5類になったが、玄関先でマスクを着けて距離を取り面会をして頂いている。顔を見て直接話ができる事で安心して頂ける様に努めている。	月1回、家族に写真を添え近況を書面で伝えている。面会、回数制限なく、週2回来られる家族もいる。家族が好物のご飯や果物を持ってくる方、行きつけの美容院で毛染めをする方、元職員が運営するカフェに行く方など馴染みを大切にしている。近くの馬見丘陵公園にはよく出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	顔馴染みの人がいる事により落ち着かれたり、お互いいないと心配したりする関係が築けている方もいる。トラブルが発生しそうな時は職員が間に入り良好な関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、ご本人やご家族様の様子を伺い、相談があれば対応できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを伝えられない方に対しても、普段の生活の様子や会話や表情を観察し、ご家族様からの情報などから本人の意向をくみ取り、可能な限り支援できるように努める。	入居前、できるだけ自宅へ訪問し、暮らしぶりを見させてもらうと共に、生活歴、趣味趣向、特技、好物などを本人家族に聴き、職員で共有している。入居後も変わらず、把握に努めている。	生活歴、趣味趣向、得意、好物などを把握されているが、アセスメントシートに十分に記されていない。読めば、その人が把握できる書面が欲しい。入居時に本人家族に記入してもらえる書面を用意しておくことも1つである。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時や入居後の面会時に家族や知人様から情報を得るように努めている。本人との日常的な会話からも情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の面接時や入居後の面会時に家族から情報を得るように努めている。本人との日常的な会話からも情報を得るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別の介護計画に基づいた介護を実践し記録に残している。ケアプランチェック表を元に3ヶ月ごとに計画の見直し、評価を行っている。	介護計画の作成とモニタリングは3ヶ月毎に行われている。内容の一部に、趣味趣向や得意なことが反映されているが、身体的なことが中心になっている。	介護計画の内容に、利用者の生活歴、趣味趣向、特技、好物などが反映され、より「その人」が伺える内容の計画になるよう期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護計画に基づいた介護を実践し記録に残している。ケアプランチェック表を元にケアプラン会議で計画の見直し、評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに柔軟に対応でき、ご本人やご家族様の要望には出来る限り対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの大学の認知症カフェや、に行かせて頂いたり、ピアノ演奏のボランティアの方に来て頂く予定などがある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し、ご本人、ご家族に決めて頂いている。かかりつけ医とは連絡や相談をしながら健康管理を行っている。	事業所の内科の協力医が、月2回訪問診療を行っている。他の医師をかかりつけ医にでき、往診も受け入れている。歯科往診を希望すれば、随時対応してくれる協力医療機関もある。精神科、整形外科の外来受診している方もいる。看護師が週2回来訪し、健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に二回は訪問看護師に来て頂き、介護職と連携を取りながら健康管理を行っている。ここに応じた医療、看護につなぐことが出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを提供し病院関係者とも連絡を取りながら、早期に退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族の意向を聞く機会を持っている。ご本人にとって、より良い居場所選びや方向づけができるように努めている。状態が変わり重症化した時は、その都度家族の意向を伺っている。	看取りの指針があり、入居時に説明して意思確認している。重度化したときには、医師を交えて説明し、望む最期となるよう再度意思確認をしている。この1年で1名の方を看取った。コロナ禍であったが、家族も居室に入り面会してもらった。また、折々に看取りの振り返りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ステップアップ研修で緊急時の対応の研修を受けている。施設でもその時々に応じて説明を行っており、職員全員が対応できるように周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、防災訓練を行っている。火災や災害時の避難場所や協力体制の確認もしている。	年2回、火災想定避難訓練を実施しているが、夜間想定はできていない。戸外への避難は10分弱かかった。緊急時手順マニュアル、緊急連絡網も作成している。BCPは完成予定である。水、ご飯、惣菜を3日分備蓄しており、カセットコンロ・ランタン、毛布、オムツなどを備えている。地域との協力体制は、運営推進会議で話題にしていく予定である。職員の家族に自治会役員がいて、心強い。	事業所のBCPを職員で研修するとともに、夜間想定訓練も実施されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、プライバシーを確保した関わりができているかを職員各々が意識し、互いに声掛けや注意をし合えるようにしている。	利用者の呼名、原則は苗字「さん」付けであるが、反応を見て下の名前で呼ぶこともある。同性介助を希望する方には対応している。排泄介助は扉を閉め、近くで見守っている。職員に馴れ馴れしい言動があれば注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中でご本人の意志を確認し、無理強いをせずご本人がどうされるのか、動きを待つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課はあり、自由に過ごされている。一人ひとりのペースで過ごされておられ、その人に合わせた個別ケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節やその日の気候に合わせた服装をして頂ける様に努めている。ヘアスタイルも散髪時などに希望を聞きながら行っている。白髪染めは希望者で美容室に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる時や、誕生日の時などに利用者様に意見を聞きながら行っている。野菜の種取や出来る事を一緒に行き食器の片付け、テーブル拭きなど、自分の役割とってして下さる方もいます。	食事は、週1・2回は業者の調理済みのものを使うが、基本的に職員が3食手作りしている。献立会議を開き、利用者に希望を聞き、肉と魚の順序、1日10品目も考慮しメニューを決め、管理栄養士の意見を仰いでいる。誕生日には、本人の食べたい物を提供している。畑で茄子やジャガイモを作ったりしている。利用者にも準備や片付けなど、出来ることは手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食材が10品目に近づけられる献立で家庭料理を中心に提供している。嚥下状態によりきざみ食やとろみをつけたり、その人の状態に合わせた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に本人の能力に応じた口腔ケアを行っている。歯科医による往診により、義歯の調整や歯の管理、助言も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を目指している。個別の排泄パターンに合わせて誘導を行いトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	利用者17名中、昼間オムツの方は1名で、その他の方はリハビリパンツか布パンツである。トイレに座って自然な排泄ができるよう支援している。利用者個々の排泄パターンを把握し、適切なタイミングでトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維を多く含む食材の選択や水分を多く摂って頂いたり、体を動かす機会を増やしトイレ誘導時の腹部マッサージなどを行い緩下剤使用が最小限に留められるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個室でゆっくりと入浴して頂いている。月曜日から土曜日まで毎日入浴日を設け、入浴の準備や時間は考慮し、気持ちよく入浴して頂けるように支援している。	毎日お風呂を用意し、週2回入浴できるようにしている。利用者が重度化して湯船につかるのが難しくなっている方もあり、訪問入浴の利用も考えている。入浴剤や温泉の素、ゆず湯で、香りや季節を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度に気を配り、安心して気持ちよく休んで頂ける様に支援している。眠れない方にはお話ししたり飲み物を提供したり、安心感を持って頂ける様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録や服薬情報をファイルに綴り、変更時や注意を必要とする時は申し送りをして、職員が情報を共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生日には食事のリクエストがあれば、ご希望のメニューで昼食を提供し、あやつでケーキを提供しています。月一回の行事をし、コロナ前の様な外へ出る計画を立てて、実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や気候の良い時期には、散歩に出かけるようにしている。外気浴をしたり少人数で外に出る機会をできるだけ作る様にしている。	天気が良ければ、玄関先の駐車場に出て体操やお茶をしたり、近隣の散歩したり、時にドライブや外食に出かけることがある。近くに竹取公園や馬見丘陵公園があり、花見をすることも多い。以前は1泊で旅行もしていて、利用者の希望も聞きながら、まずは日帰り旅行を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要時は施設で立て替えて支払いをしている。買い物などは実施していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎや、希望者に対して家族に電話をかける援助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く自然光を上手に取り入れられる構造になっている。窓の開閉、床暖、換気扇、加湿器、空気清浄機を活用し室温、湿度管理を行っている。居間はスペースを広く取り、ゆったりと過ごして頂けるようにしている。	天井が高くて、採光や換気に工夫しており、リビングダイニングは広くて明るい。テーブルや椅子、ソファが配置され、壁には行事の写真や利用者の作品が貼られ、季節の生花が飾られている。廊下は広く、窓から外が眺められて開放感がある。朝・夕の換気に努め、空気清浄機付加湿器を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに食堂部分と居間部分を使い分けて過ごされている。会話されている方、テレビを観ている方、新聞や雑誌を見ている方とそれぞれの動きがあり、好きな場所でご自分のペースで好きなように過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は居心地の良い場所になるように、使い慣れたものや馴染みのあるものを置いたり、ご本人やご家族と居室内の配置を相談しながら、落ち着いた雰囲気になるように努めている。	居室にはエアコン、カーテン、クローゼット、洗面台が備え付けられ、窓から、明るい日差しが入り、外の田園風景が見える。朝・夕や清掃時には換気に努める。使い慣れた家具や写真を持ち込んで、自分らしい部屋作りをされるのを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動スペースを広くし安全に自由に移動ができるように支援している。危険がある場合はセンサーを使用し安全に生活が送れるように工夫している。		